

# さわがせ

号数 第 3 4 5 号  
発行日 令和 6 年 11 月 17 日  
発行所 金光教 韮教会  
〒 550-0011  
大阪市西区阿波座 2-2-10  
TEL&FAX 06(6541) 6313  
mail: utubo1905@gmail.com



韮布教 120 年を迎えた教会境内

## 韮布教 120 年 生神金光大神大祭を迎えて

教会長 鍵山 公生

本日は金光教 韮教会 韮布教 120 年・生神金光大神大祭にご参拝いただき、真にありがたく、おめでとうございます。

本日は大阪教会副教会長・白神紀美雄先生ご夫妻を始め、ご祭典をお仕えくださいました祭員の先生、お招きさせていただきました連合会の先生方、関係教会の皆様方、そして韮教会在籍信奉者の皆様、それぞれお忙しい中、お繰り合わせをいただき、ご参拝いただきまして、誠にありがとうございます。

### 韮教会の変遷

この韮教会は初代教会長・和田安兵衛先生が大阪住吉に住んでおられ、17



歳の頃鬱病、その上21歳の頃、労咳（肺結核）という大病に罹り、心配した母親が熱心な看病とお宮詣り、或いは数多くの医師の治療をうけ、投薬にも尽くされましたがその効果はなく、いよいよ命の終焉を待つしかない状態となりました。

その頃住吉の浜口村に住むお中という信者のお導きにて、初代白神新一郎先生の御布教されるお広前に参拝し、お取次ぎをいただきました。

白神先生は「天地の恩をお解きになり、天に向かっては日月様と拝礼するがお土地の恩を知る者はない。そればかりか、方角が悪いの良いのとお土地に不足を申し、不浄な汚らわしいことをいたして無礼と思わぬから、善



初代白神新一郎先生

事が向かって来ないのである。よくお詫びを申して、信心するがよろしい」と教えられたのです。安兵衛師はそのお話を受け賜り、「丁度父親に孝行して母親に孝行せぬ様なものである。これは相済まぬことであつた」と得心し、そこから一心を凝らして金光様の信心をさせていただくようになりました。

かくして信仰するようになって3日目には靈験をいただいて、気分が清々しくなり、乗り物でしかお参りできなかったものが、40日程で徒歩で参拝が出来、80日程で宿年の大病も労咳も共に全快させていただくことができたのです。

そのおかげをいただいてからは健康となり、商売も繁盛し、思うことが成就するので信心をするのが楽しみになり、住吉から徒歩で往復4時間かけて東区伏見町まで毎日、或いは隔日に参拝しては白神先生のお取次ぎを仰ぎ、真の信心を求めました。

年が経つにつれて参拝するだけでなく、お広前では参って来られる人々に、自分がおかげを受けた話を元に天地の親神様の尊く有り難いことを話し伝え、住吉の自宅に帰ってからも近隣の人々にお道のお話を伝え、または白神先生の広前にお導きされました。また、たびたび白神先生のご代理として教祖様の元へ参拝させていただき、直接お目にかかってみ教えをいただくことができました。



初代韮教会長  
和田安兵衛先生

明治17年12月に神道管長から教師試補を拝命しましたが、金光様は「上から下に水を流すのはみやすい（簡単だ）が、下から上に流すのはむずかしい」ということで、すぐには布教のお許しはいただけず、大阪教会でのご用に勤めました。

明治37年7月、三代金光攝胤様から布教のお許しを賜り、その帰り道、自宅に帰らず韮下通り2丁目の

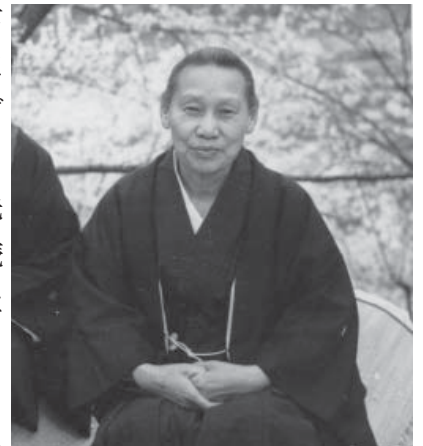
長屋一軒を借り受け、布教に専念されることになりました。その年から今年で120年を迎えました。布教後、信奉者が次々と増え、その度に広前の変遷はありましたが、大正5年に靱上通り1丁目にあった、大神宮の立派な建物を借り受け、靱教会が靱小教会所として登録されました。



靱上通り1丁目の教会（イメージ図）

和田安兵衛先生は多くの若い人々を導かれ、お道の教師を育てられました。

中でも岩屋教会在籍のこゆみ先生（鍵山作太郎師の長女）が教師育成機関（教義講習所）を卒業され、堺へ布教に出られる予定のところ、安兵衛先生の導きにより靱教会で修行することになり、先生から大変信頼を受けました。その後一時は堺の大浜へ布教に出られましたが、安兵衛先生が高齢で、日々のご用に差し支えるようになられたため、その頃ちょうど教義講究所を卒業されたばかりの鍵山正雄先生を岩屋教会から呼び寄せて堺大浜布教所の継続を任せ、こゆみ先生は靱教会へ戻り、後継者となられたのです。安兵衛先生は、昭和18年12月3日、御歳89歳にてご帰幽になりました。



二代靱教会長  
和田こゆみ先生

昭和20年3月、米軍の空襲に襲われ、こゆみ先生はその中を御神体を抱えて南へと避難したのです。教会広前は戦火に遭って消失し、土地は米軍の



戦災後、復興された当時の教会

軽飛行場になったため元の地に戻れず、しばらくは堺大浜教会に落ち着きました。

こゆみ先生は独り身で、女の細腕ながらそのまま人助けの道から離れることはなく、昭和20年12月末、大阪市内へと再布教を企てられました。元の信奉者の協力を得ながら苦労の末、現在の阿波座2丁目、明治幼稚園の跡地を借り、焼けトタンを利用してバラックを建て、戦後のお取り次ぎが再会されたのです。その後焼け出された信奉者はぽつりぽつりと戻って来られ、戦後の苦労を共にしながら苦難にあえぐ信奉者たちに生きぬく道



昭和29年 布教50年祭時の教会境内

を教え、多くの信奉者達を導かれるのでした。日が経つに従って瓦葺きの神殿8.8坪が建築され、そこへ信奉者の手作業によって仮広前が増築されました。しかしその仮広前は雨漏りのひどいものでした。

昭和25年9月、関西地方を襲ったジェーン台風によってかろうじて増築された仮広前は倒壊し、そこで本格的に25坪の広前を新築され、4年後には12坪の御神殿を増築し、靱布教50年祭が仕えられるなどそのご比礼

の姿は目を見張るものがありました。しかし年を重ねるほどに身の衰えが徐々に迫り、昭和46年2月23日、83歳にてご帰幽になられました。亡くなられる前にこゆみ先生は、私の母に、「教会の後はその子（鍵山公生）に頼むで」と伝えられたのでした。

教会の後継者は10年間は堺大浜教会長が兼務され、日常のお取次ご奉仕はこゆみ先生が委ねられたように、私がお手代わりさせていただいて参りました。

昭和60年10月、靱布教80年祭時には今の広前の新築をさせていただき、時々増築を重ねつつ、神様の尊さもありがたさも十分理解できておらず、信心の徳もない者が、父の指導や、先輩先生や信奉者の皆様から教えていただき、神様のご用にお使い頂いて参りました。ようもようもここまで来させていただいてきたことと親神様に感謝させていただき、至らぬこととお詫びとお礼を申しあげるばかりでございます。



昭和60年 布教80年祭時の教会境内

本日はこのように靱布教120年祭をお迎えすることができまして、万感の喜びでございます。親神様を始め、大阪教会歴代教会長先生並びに、歴代靱教会長先生の皆様にお喜びいただけるかどうか、ここからなお一層人助けのご用にお使いいただき、信奉者の皆様と共に、世界の人々が面白く、嬉しく、ありがたく、幸せな世の中を築いていけますよう、お役に立たせていただきたいと願っております。

## 教会内部改装工事等報告

前回のさわかぜにてお知らせいたしました、韃教会は新築されて40年が過ぎ、広前各所の汚れなど傷んでまいりましたので、韃布教120年祭を迎えるに当たり広前内部の改装等を行い、無事に完了いたしましたので、ご報告申し上げます。

改装場所：玄関ロビー・応接室天井クロス張り替え、広前ジュータン張り替え、脇殿の壁クロス張り替え、広前椅子張り替え、境内トイレ改修、駐車場アスファルト舗装、玄関幕新調、



玄関ロビークロス張り替え



境内トイレ改修



駐車場アスファルト舗装



脇殿のクロス張り替え



広前ジュータン張り替え

# 靱布教 120 年 生神金光大神大祭奉行

11月17日(日) 午前10時30分より

祭典後教話 講題：「廣大無辺 自由自在」

講師：大阪教会副教会長 白神 紀美雄 先生

令和6年12月

1日(日) 月例祭並びに

初代靱教会長和田安兵衛先生例年祭(81年目)執行

午前10時30分

7日(土) 月例祭執行

午前10時30分

祭典後教話、大阪府連盟布教部講師

15日(日) うりわり墓参 午前7時

20日(金) 信徒共励会 午前10時

22日(日) 月例霊祭並びに越年祭執行

午前10時30分



月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして  
ご慰霊させていただきます。  
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。  
(11月24日午前10時30分より)

さわかぜは、靱教会ホームページからお読みいただけます。



金光教うつぼ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>